巻頭言

初めての海外開催討論会を迎えて

白井 理

Welcome to the 65th Annual Meeting of the Polarographic Society in Taiwan

Osamu Shirai

第 65 回ポーログラフイーおよび電気分析化学討論会 (The International Joint Meeting of the Polarographic Society of Japan (PSJ) and National Taiwan University (NTU)) を台湾の国立台湾大学で開催させていただきますことを嬉しく存じます。特に、国立台湾大学の陳力麒教授、謝博全助理教授には討論会や懇親会の会場の選定だけでなく、運営においてもご助力を賜り、感謝致しております。

2011 年の第 57 回討論会は沖縄県那覇市で開催されましたが、討論会理事(京都大学 加納教授)の所属する勤務地とは無関係な場所で開催される初めての討論会となりました。私も事務局としてお手伝いさせて頂きましたが、ポスターボードの運搬や会場の設営・撤去などを参加者の皆様にもお手伝い頂き、無事に終えることができました。他の学会と比べて厳しいコメントが飛び交い、常に緊張感がありながら、会議や討論会以外の場では協力的で和気あいあいとした雰囲気を持つポーログラフ学会ならではのことと実感しました。それ以降、第 59 回(石垣島、担当理事:甲南大学 山本教授)、第 62 回(宮古島、担当理事:甲南大学 山本教授)と沖縄県で二度開

催され、昨年の第 64 回は長崎県の壱岐島(担当理事:佐賀大学 富永教授)で行われたため、「島」論会といわれることもありました。一方、第 63 回は討論会担当理事(大阪府立大学 椎木准教授)の職場から遠く離れた山口県の下関で開催され、開催地は担当理事の勤務地とは別に比較的自由に選ばれるようになりました。普段、行く機会がない場所での開催は参加者にとって楽しみでありましたが、交通の便を考えると参加者に時間的、金銭的な負担を強いたように思われます。また、物見遊山でよいのかという意見もあり、反省すべき点もいくつかあるかと存じます。今後の学会運営に反映していきたいと存じます。

近年のテーマとしては、電気化学では界面電荷移動が重要であるので、「界面」「辺境」といったキーワードとともに、材料、医療・生体関連化学の分野でも電気化学は重要な位置を占めるため、「異分野融合」といったキーワードも出ていました。今回は、様々な分野で基礎から応用までポーログラフ学会らしくしっかりした「本質」に迫る討論の場となることを願っております。厳しいコメントを含む自由闊達な議論を望みますが、切磋琢磨を目指してさらに各人の研究を発展させるこ

とを祈っております。

今回は初めて海外で行われる討論会となり、開催形式も二転三転としましたが、最終的には国立台湾大学と日本ポーログラフ学会の合同会議 (International joint meeting) という形式になりました。国際会議に相当するということで使用言語も英語と致しました。但し、基本が「ポーログラフイーおよび電気分析化学討論会」であるということと会場の規模を考慮して、台湾においては会告を一般公開しておりません。参加希望者が多くなりすぎ、規模が大きくなりすぎて学会運営に支障をきたすことを回避するためです。そこで、陳先生、謝先生に台湾側の講演者および参加者を調整いただきました。また、会場として国立台湾大学が選ばれた理由についてですが、身内話で申し訳ないですが、卒業生など関係者が複数名存在するためです。加納研究室にはこれまでポスドク、留学生 (長期、短期) として台湾から 6 名来られています。謝先生もそのお一人ですが、陳先生は留学生 (聶さん) の出身研究室の教授であり、京都にも二度ほど来られています。そのような縁から、国立台湾大学での討論会の開催についてご相談させていただくと快くお引き受けいただきました (加納教授が依頼)。本学会の規模と財政事情を考慮して、会場として「知武館の高坂講義室」をご紹介いただき、その由来等もお教えいただきました。とくに、知武館の記念室は高坂知武先生の業績を顕彰するために設置されたものです。是非、参加者の皆様にも会期中にご覧いただきたいと存じます。な

お、口頭発表は会場となる知武館が所属する生物産業機電工学系でなじみの深い生物系の電気化学に関する発表が若干多くなっておりますが、日本ポーログラフ学会特有の基礎を重視した研究、電池の基礎から応用までを視野に入れた研究の発表も予定しております。

口頭発表は一会場 (高坂講義室) で行い、キーノート講演が 8 件、依頼講演が 7 件、受賞講演については志方国際メダルが 1 件、志方メダルが 3 件となっています。ポスター講演 (高坂講義室前の廊下) は 30 件ずつで計 60 件を予定しており、それぞれポスター発表前に 1 分間のフラッシュプレゼンを行っていただきます。英語でのフラッシュプレゼンも初めての企画ですが、英語で初めて発表する学生にとってはよい経験になるかと思います。ポスターサイズはあまり日本では見かけないですが、縦 90 cm、横 60 cm (縦長 A1 サイズに相当) です。

近年の島シリーズでは、「辺境」つまり「国境」に近い地で討論会が開催されてきましたが、今回はとうとう「国境」を超えてしまいました。異文化を感じながら、外から見た日本 (自分自身) を感じる良い機会にもなります。楽しみながら、白熱した議論をお願いします。海外で開催することについては賛否両論あるでしょうが、決まったからには最善を尽くし、良い意味で参加者全員の記憶に残る討論会になればと祈念致しております。

(しらい おさむ、本会討論会理事)